

製品アクティベーションガイド

ActiveImageTM 2022
PROTECTOR
Virtual

2022年7月27日改訂



本ガイドの効率的な使用方法

本ガイドでは、オフライン（インターネット接続できない環境）でのActiveImage Protector 2022 Virtualの導入に必要な、製品のアクティベーション方法について解説しています。

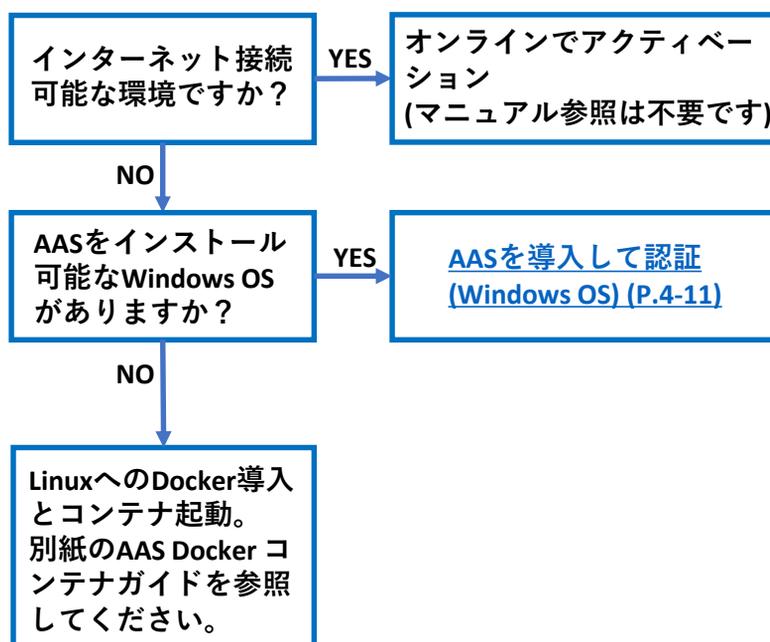
すべての内容を確認しても問題はありませんが、必要な部分だけを参照することで効率的に理解可能です。

インストール手順についての注意点：

ActiveImage Protector 2022 Virtualでは他のActiveImage Protectorと異なり、正しくアクティベーションするための実装の順序があります。

納品されるプロダクトキーには、HyperAgent用と仮想ゲストバックアップ用の2種類があります。アクティベーションにはホストの特定が必要となるため、まずは対象ホストへ常時ネットワーク接続可能なマシンで、ActiveImage ProtectorのSetup.exeを実行して、HyperAgent用プロダクトキーでインストールをおこなってください。エージェントレスバックアップをおこなわない場合もインストールが必須となります。初めにHyperAgentとしてインストールしたActiveImage Protectorのアクティベーションをおこなってから、実際のバックアップ対象となる仮想ゲストにActiveImage Protectorをインストールしてアクティベーションをおこなう順序となります。

導入環境別フロー （該当するページを参照してください）

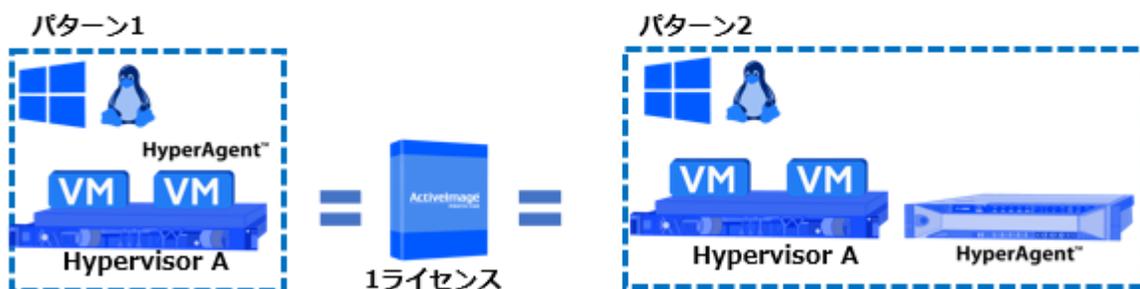


※ActiveImage Protector 2022 Virtualは、ライセンスファイルでのアクティベーションはできません。

はじめに

本ガイドはActiveImage Protector2022シリーズ導入時に必要となる、製品アクティベーションについて記述しています。所持しているActiveImage Protector 2022シリーズに対応した、各ガイドを参照してください。またオンライン環境の場合には、基本的には自動的にインターネットを経由して製品のアクティベーションがおこなわれるため、アクティベーションのための作業は特に必要ありません。

ActiveImage Protector 2022 Virtual 1ライセンス=1ホスト



1ライセンスで、1台のハイパーバイザー上のWindows / Linux OSを台数無制限でバックアップ運用可能です。ハイパーバイザーがMicrosoft Hyper-V,またはVMware vSphereの場合には、HyperAgentを使用することでエージェントレスバックアップ方式も利用できます。また、本ガイドの手順はハイパーバイザーがMicrosoft Hyper-V,もしくはVMware vSphereを想定しています。その他のハイパーバイザーでは導入方法が異なります。

アクティベーションのタイミング

ActiveImage Protector 2022 Virtualでは、納品されるプロダクトキーはHyperAgentと仮想ゲストバックアップ用の2種類です。

最初にバックアップ対象のハイパーバイザーへ接続可能なマシン（ゲストOSでも可）へ、HyperAgentのインストールをおこない、ハイパーバイザーのアクティベーションを完了させてから、各ゲストマシンのアクティベーションが可能となります。

アクティベーション方法

インターネット接続可能環境（オンライン環境）

特にアクティベーションの作業は不要です。自動的にインストール後のタスク作成時にアクティベーションされます。（HyperAgentをインストールしてバックアップ対象のホスト登録が必要です。）

クローズドのネットワーク環境（オフライン環境）

AAS(Actiphly Authentication Service)方式のみです。

任意のマシンへAASをインストールします。その後AASで発行されたURLへ接続して、仮想ゲストバックアップ用とHyperAgent用のプロダクトキーをバンドル化します。

次に、HyperAgent用のプロダクトキーで、バックアップ対象のホストと常時接続可能なマシンへHyperAgentをインストールし、[ハイパーバイザーを追加]より、対象のホストのIPを指定します。

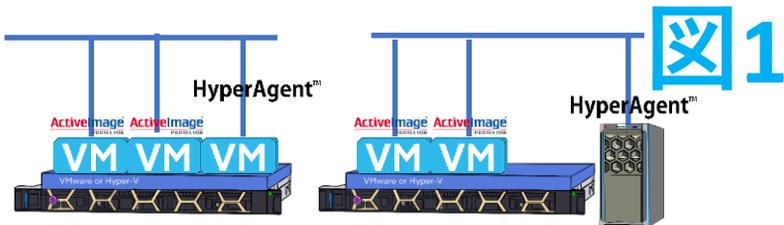
各仮想マシンにActiveImage Protectorをインストールする場合は、各ゲストマシンへ仮想ゲストバックアップ用のプロダクトキーでインストールをおこない、アクティベーションを確認します。

エージェントレスバックアップの場合は、インストールしたHyperAgentよりバックアップタスクを作成して運用します。

ActiImage Protector 2022 Virtualのアクティベーションについて

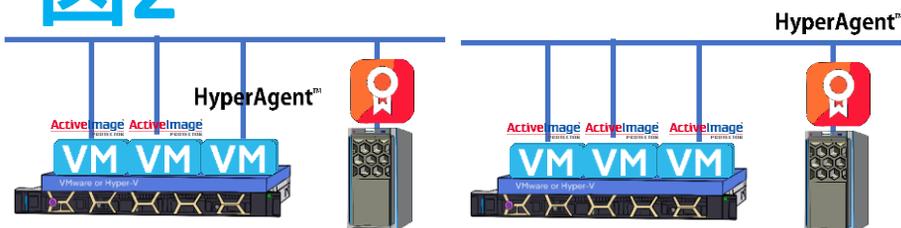
ActiImage Protector 2022 Virtualの導入先ハイパーバイザーがMicrosoft Hyper-VまたはVMware vSphere、かつインターネット接続ができないローカルエリアネットワーク環境では、AASを使用してアクティベーションをおこなう必要があります。その他のハイパーバイザーでは、ActiImage Protector 2022 Serverと同様のアクティベーション方法となるため、[製品アクティベーションガイド Server]をご参照ください。

HyperAgentをインストールするマシンは、ActiImage Protector 2022を使用するハイパーバイザーへ接続可能な、物理/仮想マシンに限定されます。またホストの具体的なアクティベーションについては、P.8-10を参考におこなう必要があります。



AAS(Actiphy Authentication Service)によるアクティベーション

図2



AASの導入先は、図2のようにハイパーバイザーへ接続しているマシン (Windows OS)です。また、Linux環境への実装は、別紙のAAS Docker コンテナガイドを参照してください。

AASのインストールについて、以前は別途Setup.exeのダウンロードが必要でしたが、ActiImage Protector 2022よりActiImage Protectorのインストーラーに含まれています。AASのインストールには、プロダクトキーの入力は必要ありません。図3のインストーラー画面下部にある[Actiphy Authentication Service(AAS)]のラジオボタンをチェックして[インストール]をクリックしてください。以下の画面では、必ず[デフォルトインストール]を選択したまま、インストールをおこなってください。インストールが完了したら[終了]をクリックします。



図3

ActiImage Protector 2022
Version 6.0.0.7261

Actiphy ActiImage Protector を以下のパスにインストールします:

C:\Program Files\Actiphy\ActiImage Protector

186MB の空き領域が必要です。

インストールタイプを選択してください

プロダクトキーを使ってライセンスされたコンポーネントをインストールする (?)

プロダクトキーを入力してください。

リモートコンソールをインストールする (?)

"インストール"ボタンをクリックすると次のものに同意したものとみなします。ライセンス、および プライバシーステートメント

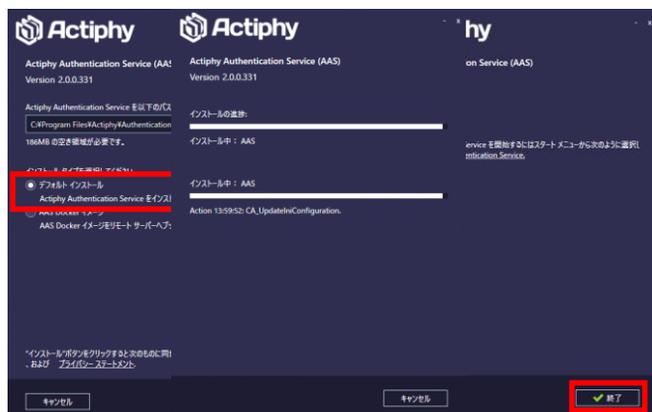
MSI インストーラーを作成する (?)

関連製品をインストールする (?)

- Actiphy Boot Environment Builder
- Actiphy HyperBoot
- Actiphy Authentication Service (AAS)
- Actiphy ReZoom it!

キャンセル

インストール



インストールが完了すると、デスクトップ上にアイコンが作成されるため、ダブルクリックしてAASを起動します。

インターネット接続をおこなえないローカルエリアネットワーク上の使用では、デフォルトの [サーバーモード] を選択したままにします。

図4に表示されるライセンスバンドルURLをクリップボードに [コピー] します。メモ帳などにペースト後、インターネット接続可能なマシン上で、ブラウザ経由でコピーしたURLへ接続をおこないます。このURLを使用してプロダクトキーをバンドル化した場合、そのURLを発行したAAS上でのみアクティベーションが可能となります。

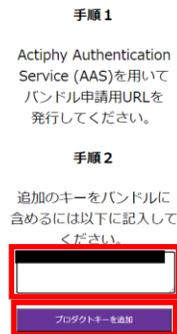


URLに接続するとライセンスバンドル申請フォームのサイトに接続します。



バンドルファイルの受け取りに使用するメールアドレスを入力し、[検証!]をクリックしてください。

URL発行元のAASでアクティベーションしたい、仮想ゲストバックアップ用のプロダクトキーを追加します。プロダクトキーを入力して [プロダクトキーを追加] をクリックします。



追加をクリックすると図6のように、仮想ゲストバックアップ用とHyperAgent用のプロダクトキーが表示されます。

ライセンスバンドル申請フォーム

Actiphy Authentication Service (AAS) 用の設定を行います



🔑 ライセンス復元コードを入力する 🗑️ ライセンスの割当の取り消し

<input type="checkbox"/>	含める?	プロダクトキー	製品名	補足情報	ライセンス数	種別	地域
<input checked="" type="checkbox"/>	使用可能		ActiveImage Protector 2022 Server Linux Virtual for Guest OS for Virtual		現在: 0 / ∞ 追加割当: +0 / 1000 (他 0)	Purchased Key	Region Japan
<input checked="" type="checkbox"/>	使用可能		ActiveImage Protector 2022 with HyperAgent Basic Virtual for Host OS for Virtual		現在: 0 / 1 追加割当: +0 / 1 (他 0)	Purchased Key	Region Japan

ここでライセンスを割当て ↑

+ このバンドルにライセンスを割り当てる (バンドル化前なら取消可能)

図7のようにライセンス数の指定をおこないます。1ライセンスを購入した場合、[ActiveImage Protector 2022 with HyperAgent Basic Virtual for Host OS for Virtual] は最大1と表示されます。これはActiveImage Protector 2022 Virtualの所有ライセンス数と同数になります。

[ActiveImage Protector 2022 Server Linux Virtual for Guest OS for Virtual] は仮想ゲストのプロダクトキーで、実質無制限となるため、最大1000と表示されます。アクティベーションをおこなう仮想マシンの台数以上を入力してください。



ActiveImage Protector 2022 Server Linux Virtual for Guest OS for Virtual	現在: 0 / ∞	追加割当: 30 / 1000 (他 0)
ActiveImage Protector 2022 with HyperAgent Basic Virtual for Host OS for Virtual	現在: 0 / 1	追加割当: 1 / 1 (他 0)

※仮想ゲストバックアップ用の追加割当については、将来的な仮想マシンの増加に備えて、あらかじめ既存の仮想マシン数より多く割り当てることも可能です。

追加割当を行ったら、図8の [このバンドルにライセンスを割り当てる] をクリックしてください。

<input type="checkbox"/>	含める?	プロダクトキー	製品名	補足情報	ライセンス数	種別	地域
<input checked="" type="checkbox"/>	使用可能		ActiveImage Protector 2022 Server Linux Virtual for Guest OS for Virtual		現在: 0 / ∞ 追加割当: 30 / 1000 (他 0)	Purchased Key	Region Japan
<input checked="" type="checkbox"/>	使用可能		ActiveImage Protector 2022 with HyperAgent Basic Virtual for Host OS for Virtual		現在: 0 / 1 追加割当: 1 / 1 (他 0)	Purchased Key	Region Japan

ここでライセンスを割当て ↑



+ このバンドルにライセンスを割り当てる (バンドル化前なら取消可能)

追加が完了したら、下図の赤枠内をクリックしてバンドル化対象とします。

ライセンス復元コードを入力する
 ライセンスの割当の取り消し (2)

<input type="checkbox"/>	含める?	プロダクトキー	製品名	補足情報	ライセンス数	種別	地域
<input checked="" type="checkbox"/>	使用可能		ActiveImage Protector 2022 Server Linux Virtual for Guest OS for Virtual		現在: 30 / ∞ 追加割当: +0 / 1000 (他 0)	Purchased Key	Region Japan
<input checked="" type="checkbox"/>	使用可能		ActiveImage Protector 2022 with HyperAgent Basic Virtual for Host OS for Virtual		現在: 1 / 1 追加割当: +0 / 0 (他 0)	Purchased Key	Region Japan

+ このバンドルにライセンスを割り当てる (バンドル化前なら取消可能)

手順3

一つ以上の
プロダクトキーを選択して
「バンドル化！」を
押してください。

バンドル化!

keymaster.actiphy.com の内容

この操作を行うとライセンスの割当が確定され、割当を取り消すことがライセンス復元コード無しに行えなくなります。バンドル化を実行しますか?

OK キャンセル

手順4

バンドルを電子メールで
送信します。

電子メールを送信!

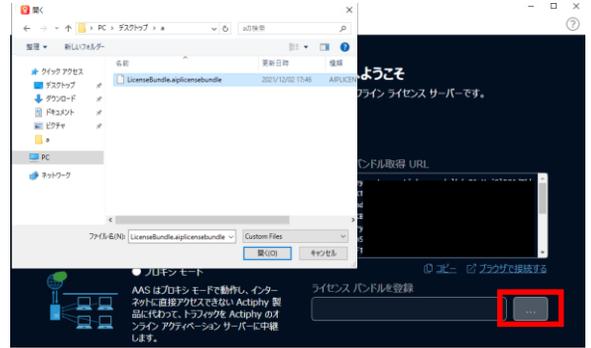
バンドル処理が正常に完了したら、画面左側の [電子メールを送信!] をクリックすると、初めに登録したメールアドレスにバンドルファイルが送信されます。



メールで受信したバンドルファイルをAASの任意の場所にコピーします。

LicenseBundle.a
iplicensebundle

AASのコンソール上で、バンドルファイルを登録します。



Actiphy Authentication Service (AAS) へようこそ

この製品はローカル ネットワーク上の互換性のある Actiphy 製品用の汎用オフライン ライセンス サーバーです。



AAS の動作モードを指定してください :

初回設定後も動作モードはいつでも変更できます。

● サーバー モード

AAS は、ライセンス サーバー モードで動作し、閉じたネットワークでライセンス管理を実行します。このモードを有効にするには、右に示す URL から発行したライセンス バンドルが必要です。

ライセンス バンドル取得 URL

`https://keymaster.actiphy.com/r1b/J-B_JyBT-TzTmawk`

📄 コピー 🌐 ブラウザで接続する

● プロキシ モード

AAS はプロキシ モードで動作し、インターネットに直接アクセスできない Actiphy 製品に代わって、トラフィックを Actiphy のオンライン アクティベーション サーバーに中継します。

ライセンス バンドルを登録

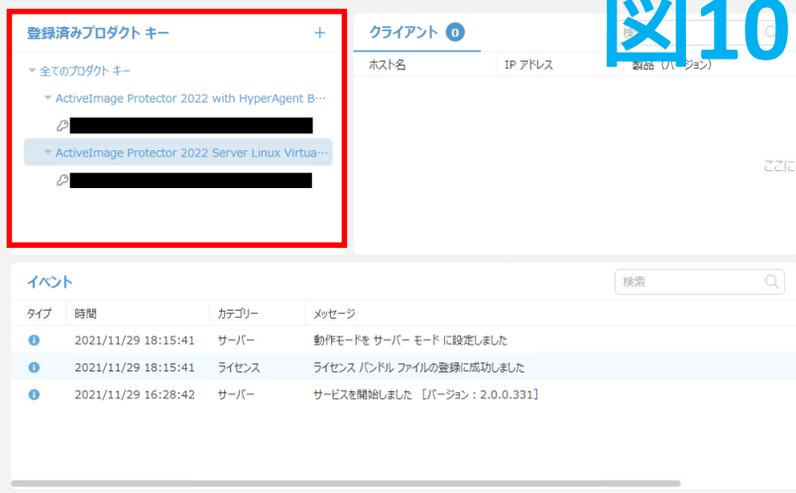
LicenseBundle.aiplicensebundle (8.95 KB)

完了

インターネット接続をおこなえないローカルエリアネットワーク上の使用では、デフォルトの [サーバーモード] を選択したままにします。そして、バンドルファイルの登録が完了したら [完了] をクリックします。

AASでバンドルファイルが正常に登録されると、ライセンス情報などが確認可能です。

Actiphy Authentication Service (AAS)

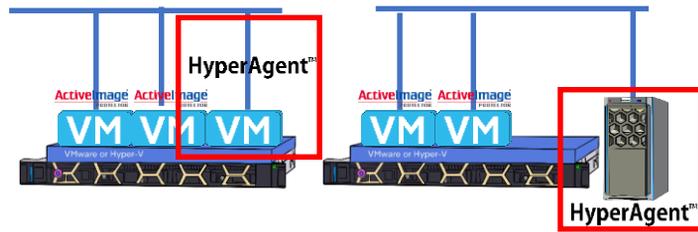


AASの準備はこれで完了です。次にActiveImage Protector 2022 Virtualのインストール、およびアクティベーションをおこないます。

ActiveImage Protector 2022 Virtualのインストール順序

ActiveImage Protector 2022のインストールは、最初にHyperAgentのプロダクトキーを使用して、ハイパーバイザーの認証をおこなうマシンへHyperAgentをインストールします。

※バックアップ対象の仮想マシンでも問題はありません。
(ただし、HyperAgentインストールマシン自身を対象に、エージェントレスバックアップはおこなえません)



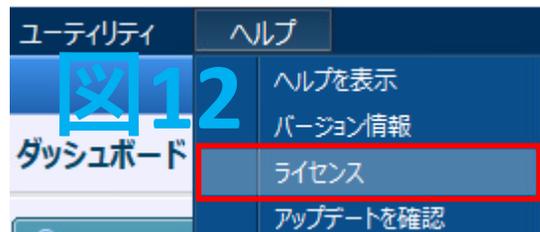
HyperAgentをインストールするマシンで、ActiveImage ProtectorのSetup.exeを実行します。起動したらHyperAgentのプロダクトキーを左図の赤枠内に入力して、インストールを実行します。



インストールが完了したら、図11の [終了] をクリックします。



インストールが完了したら、ActiveImage Protectorを起動します。図12のように [ヘルプ] - [ライセンス] をクリックします。

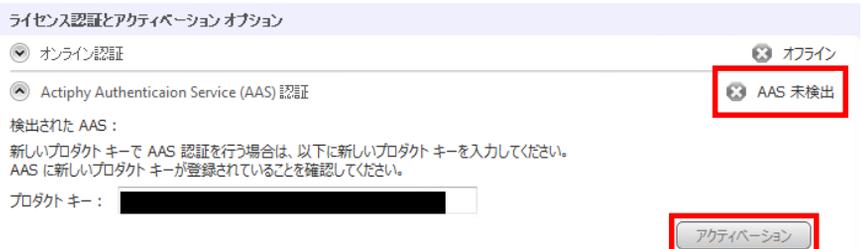


左図のようにまだアクティベーションされていないため [Actiphy Authentication Service (AAS) 認証] をクリックします。

※先にAASのインストールをおこない、次にホストに接続可能なマシンへActiveImage ProtectorのHyperAgentをインストールした場合、自動的に認証することもあります。図12の [ライセンス] を確認して、アクティベーション済みの場合には、P.10から作業を進めてください。

※DockerのAASは自動で見つからないため、コマンドでAASの指定をおこないます。

AASインストールマシンと相互通信ができているにもかかわらず、右図のように [AAS未検出] で、下の [アクティベーション] が押せない場合には、AASインストールマシンを指定する必要があります。



コマンドプロンプトを起動して、次のパスに移動します。

cd C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector

```
C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector>
```

以下のコマンドでAASのIPを指定します。

aipcontrol config AASIP <ip> (AASをインストールしているマシンのIPアドレス)

実行すると下図のように実行結果が表示されます。

```
C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector>aipcontrol config AASIP 192.168.100.28
Actiphy Controller [Version 6.0.0.7272]
AASIP=
```

```
C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector>
```

ActiveImage Protectorのコンソールを参照し、まだアクティベーションされていない場合は、右図の[ライセンス情報を再読み込み]をクリックします。



ライセンス認証

このプロダクト キーはアクティベーションされていません。

プロダクト キー: [REDACTED]

製品名: ActiveImage Protector 2022 Virtual

認証方法: 不明

ライセンス タイプ: 購入済み

サポート期限: [REDACTED]

最後の認証成功日時: 未アクティベーション

次回の認証期限: 2021/12/29 18:33:00

アクティベーション タイプ: コンピューターとハイパーバイザー ベース

ライセンス総数: 0

このコンピューター (HyperAgent 自身): 0/0

ハイパーバイザー: 0/0

ライセンス認証とアクティベーション オプション

オンライン認証 オフライン

Actiphy Authenticaion Service (AAS) 認証 AAS 未検出

検出された AAS :

新しいプロダクト キーで AAS 認証を行う場合は、以下に新しいプロダクト キーを入力してください。
AAS に新しいプロダクト キーが登録されていることを確認してください。

プロダクト キー:

ライセンス認証とアクティベーション オプション

オンライン認証

Actiphy Authenticaion Service (AAS) 認証

検出された AAS : 192.168.100.28

新しいプロダクト キーで AAS 認証を行う場合は、以下に新しいプロダクト キーを入力してください。
AAS に新しいプロダクト キーが登録されていることを確認してください。

プロダクト キー:

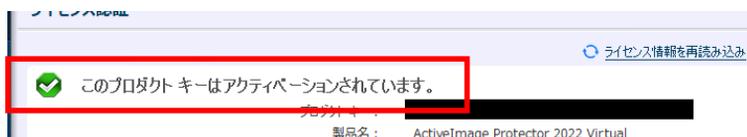
図13

オフライン

AAS 検出済み

ライセンス情報を再読み込みをクリックすると、図13のように [AAS検出済み] へステータスが変化します。その後 [アクティベーション] をクリックします。

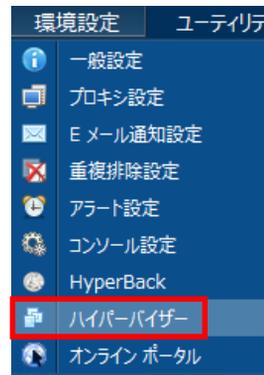
[このプロダクトキーはアクティベーションされています。] にステータスが変更されたら、HyperAgentは正常にアクティベーションされた状態となります。



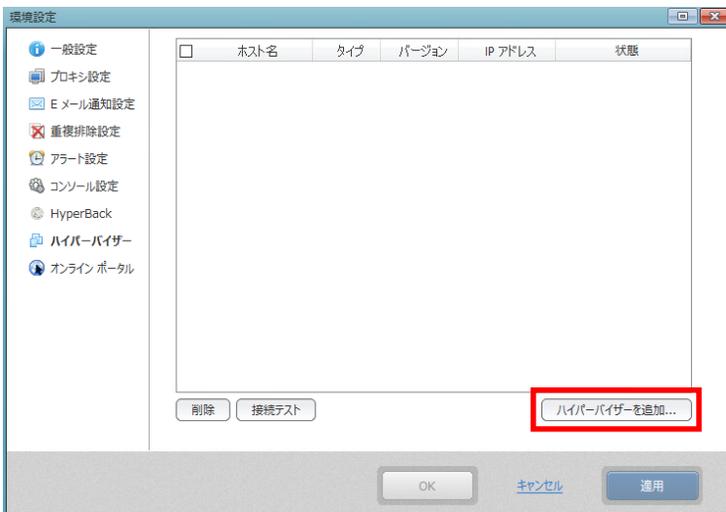
このプロダクト キーはアクティベーションされています。

製品名: ActiveImage Protector 2022 Virtual

その後バックアップ対象のハイパーバイザーを登録する必要があります。



コンソールの [環境設定] - [ハイパーバイザー] を選択します。

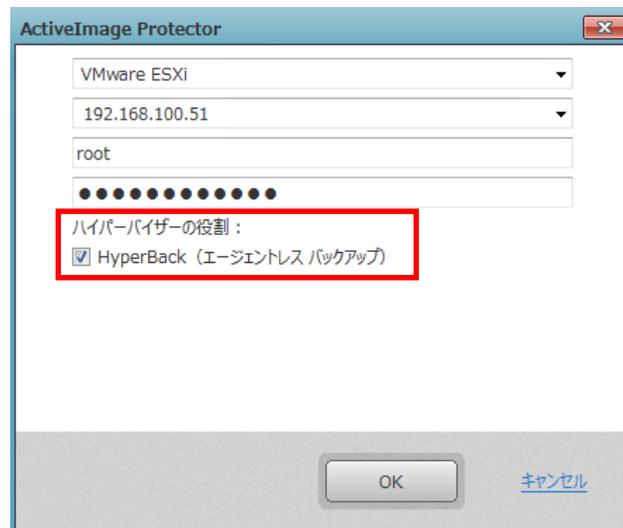


左図のように環境設定画面が表示されたら [ハイパーバイザーを追加] をクリックします。

右図のようにハイパーバイザーの設定画面が表示されます。[ハイパーバイザー タイプ] を選択して [ホスト名、または IP アドレス] [ユーザー名] [パスワード] などを入力後 [OK] をクリックします。

※赤枠内に [Hyperback (エージェントレスバックアップ)] が表示されている場合、最新のパッチを適用後、再度こちらの設定まで進んでください。

もしもパッチを適用できない場合は、必ず [Hyperback (エージェントレスバックアップ)] の項目にチェックしてください。



ホストの登録が完了すると、図14のように表示されます。これでホストの登録が完了しました。

※エージェントレスバックアップを使用する場合には、HyperBackよりバックアップ対象のマシンを選択して、バックアップジョブを作成します。

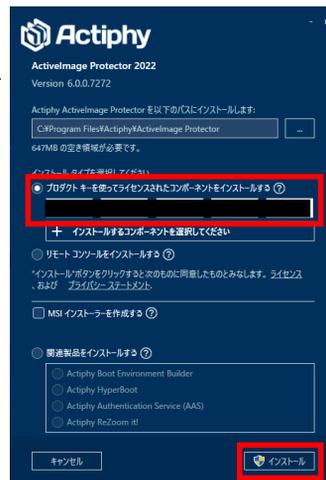
図14

ActiveImage Protectorのアクティベーション(エージェントベース)

ActiveImage Protector 2022 VirtualのハイパーバイザーのアクティベーションはP.10までで完了しています。ここでは、仮想マシンにActiveImage Protectorをインストールして運用する、エージェントベースの場合の、各仮想マシンでのActiveImage Protectorのアクティベーションについて記述します。

まず、登録したハイパーバイザー上の仮想マシンで、ActiveImage Protector 2022のSetup.exeを実行します。

仮想ゲストバックアップ用のプロダクトキーを入力してインストールをおこないます。



基本的にはAASをインストールしたマシンと相互通信可能な状態であれば、インストールをおこなうだけで、図15のように自動的にアクティベーションがおこなわれます。もしもアクティベーションされない場合には、P.9同様に下記のようにAASをIPアドレスで指定します。

※DockerのAASは自動で見つからないため、コマンドでAASの指定をおこないます。

コマンドプロンプトを起動して、次のパスに移動します。

cd C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector

```
C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector>
```

以下のコマンドでAASのIPを指定します。

aipcontrol config AASIP <ip> (AASをインストールしているマシンのIPアドレス)

実行すると下図のように実行結果が表示されます。

```
C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector>aipcontrol config AASIP 192.168.100.28
ActiveImage Protector [Version 6.0.0.7272]
AASIP=
C:\Program Files\Actiphy\ActiveImage Protector>
```

以上の手順を、エージェントベースで運用する各仮想マシンごとにおこなってください。